

2025  
7月25日号207  
VOL.

発行所 公益社団法人 福島県診療放射線技師会 〒963-0201 郡山市大槻町字原ノ町3-1 TEL/FAX 024(954)7595

ホームページアドレス <http://fart.jp/>

巻頭言

## 誓い未来



会長 鈴木 雅博

2025年5月31日に開催されました第14回令和7年度定時総会において、新里昌一前会長の後を引き継ぎ、(公社)福島県診療放射線技師会会長を拝命した鈴木雅博です。

平成27年に理事に選任され、平成29年からは副会長として4期8年(理事としては10年)会の運営に携わってきました。

総会時の会長就任の挨拶では、緊張で思っていたことの半分も話せませんでしたので、また、総会には一部の会員の方しか会場には参加できませんでしたので、この場を借りて、考えていた挨拶を述べたいと思います。

「歴史ある本会の会長という重責を担うにあたり、身の引き締まる思いでございます。これまで本会を支えてこられた歴代会長や会員の皆さまに心より敬意を表します。さて、私たち診療放射線技師を取り巻く医療環境は、今、大きく変化しています。AIや画像技術の進展、そしてタスクシフト・タスクシェアの推進。私たち技師にも、これまで以上に多様な役割と専門性が求められています。こうした変化に対応し、県内の技師が安心して働き、ともに成長できる環境を整えること。それが、これからの本会に求められる大きな使命だと考えております。今後は、研修や情報共有の充実、若手育成、地域との連携強化に取り組み、皆さまと共に歩んでまいります。最後になりますが、引き続きご支援、ご協力を賜りますようお願い申し上げます。」が考えていた挨拶になります。

福島県診療放射線技師会定款第3条(目的)は、「診療放射線技術の向上発展と診療放射線知識の啓もう並びに会員の職業倫理の高揚により、診療放射線検査の適正を確保するとともに、県民に対し診療放射線知識の普及をはかり、もって県民医療の向上に寄与することを目的とする。」となっています。会の運営に携わるまでは定款など気にしたこともありませんでしたが、この立場になりいろいろと学ばされることが多くあります。職業倫理の高揚とは、自分の職業に誇りを持ち、人として、また専門職としてふさわしい行動を心がけることです。医療に関わる私たちにとっては、患者さんへの思いやりや、安全・安心な医療の提供、個人情報の守秘などが大切な倫理的な姿勢となります。こうした意識を高めることで、患者さんからの信頼を得ることができ、チーム医療の中でもより良い関係づくりが進みます。職能団体である本会は、そうした職業倫理を支える大切な役割を担っています。社会に向けて専門職の大切さを伝えたり、制度づくりに意見を届けたりすることも、私たちの専門職の価値を高める活動です。職業倫理と職能団体の働きは、お互いに支え合いながら、信頼される職業人を育てていくために欠かせないものです。この定款第3条(目的)を忘れずに、会のさらなる発展と円滑な運営に努めてまいりたいと思いますので、引き続きよろしく願いいたします。

## 福島県立医科大学 保健科学部診療放射線科学科だより

福島県立医科大学保健科学部診療放射線科学科 山品 博子

会員の皆様、こんにちは。今回の「診療放射線科学科だより」では、診療画像検査技術学の座学と実習についてご紹介します。

本学科では、1年次に解剖学および解剖学実習を通じて人体の構造を体系的に学び、医療技術者としての基礎を築きます。2年次後期からは「診療画像検査技術学I~IV」として、診療放射線技師に必要な各種画像検査に関する講義（座学）が順次開講されます。これらの講義は、それぞれに対応した実習と密接に連動しており、座学で得た知識を直後の実習において具体的な技術として体得できるようカリキュラムが構成されています。さらに、各実習の終了後には、知識および技能の習得状況を評価するための客観的臨床能力試験（OSCE：Objective Structured Clinical Examination）が実施されます。この試験では、標準化された評価項目に基づいて、基本的な手技の正確性や患者対応能力などが多面的に評価され、学生は自身の習熟度を客観的に把握することができます。

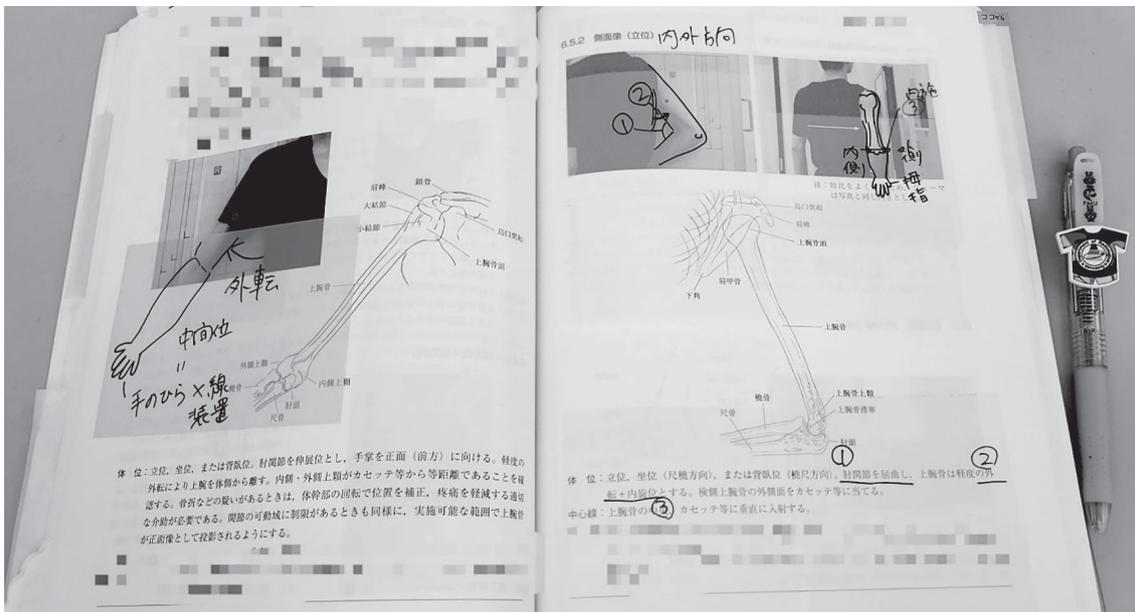
「診療画像検査技術学I」では、前半に胸部・腹部・骨部などの一般X線撮影を扱い、目的部位や臓器に応じた適切な撮影技術の習得を目指します。講義では、患者接遇の基本をはじめ、X線撮影装置および補助具の使用法、適切な撮影条件、人体の撮影基準線、対象部位の構造と機能などについて学修します。後半では、透視撮影検査、透視造影検査、血管撮影検査、IVR（画像下治療）を取り上げ、各検査の目的や特徴を理解するとともに、検査ごとの実施方法や、必要とされる解剖学・生理学・病態・治療法に関する知識も幅広く修得します。

私が主に担当している前半の一般X線撮影においては、2025年度からの国家試験出題基準の改訂により、「エックス線撮影技術学」が独立した科目として位置づけられたことを受け、座学において技術的内容をいかに効果的に伝えるか、また臨地実習までに知識と技術をどのように結びつけるかについて、開学以来の4年間、試行錯誤を重ねながら授業設計と指導法の改善に取り組んできました。なかでも重視しているのは、標準的な体型の健常者に対して、標準的かつ再現性の高い画像を提供できる技術の習得です。具体的には、教科書に掲載されている理想的なX線画像を得るために必要なポジショニングの各工程について、その一つひとつの「なぜ」を理解し、論理的に説明できた上で実践できるようになることを目標としています。

たとえば、胸部X線撮影において「顎を撮影台に載せる」といった記載がありますが、その目的は「肺尖部に顎先が重なって障害陰影とならないようにするため」です。このような内容は、診療放射線技師にとっては基本的な知識ですが、初学者にとっては、行為の目的や理由、さらには撮影画像にどのような影響が生じるのかを関連付けて理解することが重要です。そのため、授業ではX線画像にどのような影響を及ぼすのかを学生自身が考

えるグループワークも取り入れ、その内容を教科書に書き込んでいく形式で学修を進めています。また、教科書に掲載された画像の「その先」にある情報こそが、診療放射線技師にとって実践的な知識・技術として重要になる場面もあります。そのため、補足情報の整理や記録には透明付箋の活用を推奨し、必要に応じて書き加え、試験勉強の際には取り外して教科書を原本の状態です再確認できるようにしています。

実臨床では、必ずしも教科書どおりに進まない状況が多くありますが、このような授業の工夫を通じて、学生が状況や個々の患者に応じて柔軟に対応するための応用力を養えると考えています。教科書をフル活用しながら追記や補足情報を蓄積することで、学生は実習の場においても、自身の記録を参照しながら積極的に学びを深めています。



カラー透明付箋を用いた教科書書き込み式授業（著作権侵害防止のためモザイク加工を施しています）



適切なポジショニングをグループ内で意見を出し合いながら練習している様子

## 令和7・8年度 県技師会 理事・監事

会 長	鈴木 雅博						
副 会 長	遊佐 雅徳	菅野 修一	久米本祐樹				
常 任 理 事	堀江 常満	石森 光一	久保 均				
理 事	樵 勝幸	松井 大樹	三浦 勉	濱端 孝彦	佐久間守雄		
	森谷 辰裕	渡部 仁	田代 和広	新妻 知之			
監 事	阿部 郁明	蓮沼 一夫 (外部)					
事 務 局 長	新里 昌一	國分 美加 (引継)					
特 別 事 務 職	吉田 賢	名城 敦					

## 令和7・8年度 各種委員会

## 総務企画委員会

委員長	三浦 勉	県北	JCHO二本松病院	委員	鈴木 雅博	会津	竹田綜合病院
副委員長	樵 勝幸	県北	福島県立医科大学附属病院	委員	遊佐 雅徳	県北	福島県立医科大学附属病院
委 員	松井 大樹	県北	北福島医療センター	委員	菅野 修一	県南	田村市立都路診療所
委 員	佐久間守雄	県南	星綜合病院	委員	久米本祐樹	浜通	南相馬市立綜合病院
委 員	井上 基規	会津	竹田綜合病院	委員	阿部 郁明	県北	福島県立医科大学附属病院
委 員	田代 和広	浜通	公立相馬綜合病院	委員	蓮沼 一夫	-	
委 員	新里 昌一	県南	太田西ノ内病院				

## 財務委員会

委員長	濱端 孝彦	県南	坪井病院	委員	宮岡 裕一	県北	福島県立医科大学附属病院
副委員長	佐久間守雄	県南	星綜合病院	委員	高済 英彰	県北	福島県立医科大学附属病院
委 員	鈴木 雅博	会津	竹田綜合病院	委員	伊藤 敬	県南	寿泉堂綜合病院
委 員	新里 昌一	県南	太田西ノ内病院	委員	皆川 貴裕	会津	竹田綜合病院
委 員	國分 美加	県南	総合南東北病院	委員	篠木 悠紀	浜通	公立相馬綜合病院

## 表彰委員会

委員長	新里 昌一	県南	太田西ノ内病院	委員	松井 大樹	県北	北福島医療センター
副委員長	鈴木 雅博	会津	竹田綜合病院	委員	佐久間守雄	県南	星綜合病院
委 員	遊佐 雅徳	県北	福島県立医科大学附属病院	委員	井上 基規	会津	竹田綜合病院
委 員	菅野 修一	県南	田村市立都路診療所	委員	田代 和広	浜通	公立相馬綜合病院
委 員	久米本祐樹	浜通	南相馬市立綜合病院	委員	久保 均	県北	福島県立医科大学保健科学部

## ネットワーク委員会

委員長	石森 光一	会津	坂下厚生綜合病院	委員	三瓶 孝	県南	総合南東北病院
副委員長	鈴木 雅博	会津	竹田綜合病院	委員	新妻 知之	浜通	かしま病院
委 員	相澤 浩樹	県北	福島赤十字病院				

**災害対策委員会**

委員長	菅野 修一	県南	田村市立都路診療所	委員	鈴木 雅博	会津	竹田綜合病院
副委員長	佐久間守雄	県南	星綜合病院	委員	阿部 郁明	県北	福島県立医科大学附属病院
委員	新里 昌一	県南	太田西ノ内病院				

**学術委員会**

委員長	遊佐 雅徳	県北	福島県立医科大学附属病院	委員	新井田哲也	県南	公立岩瀬病院
副委員長	松井 大樹	県北	北福島医療センター	委員	齋藤 浩行	会津	会津中央病院
委員	浅野佳寿雄	県北	公立藤田綜合病院	委員	栗田準一郎	会津	竹田綜合病院
委員	橋本 浩二	県北	大原綜合病院	委員	桑村 啓太	浜通	いわき市医療センター
委員	高橋 克広	県北	福島県立医科大学附属病院	委員	佐藤 浩郁	浜通	呉羽綜合病院
委員	深谷 理人	県南	太田西ノ内病院	委員	中原 直人	浜通	渡辺病院

**生涯教育委員会**

委員長	堀江 常満	県北	大原医療センター	委員	吉田 賢	会津	福島県立医科大学会津医療センター
副委員長	樵 勝幸	県北	福島県立医科大学附属病院	委員	石川 智大	浜通	いわき市医療センター
委員	瀧田 幸子	県南	太田西ノ内病院				

**編集広報委員会**

委員長	久米本祐樹	浜通	南相馬市立綜合病院	委員	小澤 航也	会津	福島県立医科大学会津医療センター
副委員長	久保 均	県北	福島県立医科大学保健科学部	委員	加藤 遼	会津	高田厚生病院
委員	安藤 智則	県北	大原綜合病院	委員	清野 保幸	浜通	福島労災病院
委員	阿部 直人	県北	福島赤十字病院	委員	白土 恵	浜通	常磐病院
委員	関根 康孝	県南	太田熱海病院	委員	佐川 保良	浜通	南相馬市立綜合病院
委員	増子 英教	県南	白河厚生綜合病院				

**精度管理委員会**

委員長	森谷 辰裕	会津	会津中央病院	委員	佐藤 貴文	会津	竹田綜合病院
副委員長	田代 和広	浜通	公立相馬綜合病院	委員	熊田 良二	浜通	鹿島厚生病院
委員	相澤 浩樹	県北	福島赤十字病院	委員	渡邊 聖史	浜通	いわき市医療センター
委員	秋山 俊一	県南	総合南東北病院				

**調査委員会**

委員長	新妻 知之	浜通	かしま病院	委員	遠山 和幸	会津	南会津病院
副委員長	渡部 仁	会津	福島県立医科大学会津医療センター	委員	高橋 誠	浜通	いわき市医療センター
委員	鈴木 圭一	県北	公立藤田綜合病院	委員	高橋 豊和	浜通	いわき泌尿器科
委員	黒岩堂瑞穂	県南	星綜合病院	委員	山内 知子	浜通	松村綜合病院

## 令和7・8年度 地区委員会

## 県北地区

委員長	松井 大樹	北福島医療センター	委員	高橋 克広	福島県立医科大学附属病院
副委員長	三浦 勉	JCHO二本松病院	委員	安藤 智則	大原総合病院
副委員長	樵 勝幸	福島県立医科大学附属病院	委員	阿部 直人	福島赤十字病院
委員	宮岡 裕一	福島県立医科大学附属病院	委員	相澤 浩樹	福島赤十字病院
委員	高済 英彰	福島県立医科大学附属病院	委員	鈴木 圭一	公立藤田総合病院
委員	浅野佳寿雄	公立藤田総合病院	委員	佐藤 真司	枘記念病院
委員	橋本 浩二	大原総合病院			

## 県南地区

委員長	佐久間守雄	星総合病院	委員	秋山 俊一	総合南東北病院
副委員長	濱端 孝彦	坪井病院	委員	関根 康孝	太田熱海病院
副委員長	三瓶 孝	総合南東北病院	委員	新井田哲也	公立岩瀬病院
委員	深谷 理人	太田西ノ内病院	委員	黒岩堂瑞穂	星総合病院
委員	瀧田 幸子	太田西ノ内病院	委員	増子 英教	白河厚生総合病院
委員	伊藤 敬	寿泉堂総合病院	委員	菅野 修一	田村市立都路診療所

## 会津地区

委員長	井上 基規	竹田総合病院	委員	小澤 航也	福島県立医科大学会津医療センター
副委員長	森谷 辰裕	会津中央病院	委員	加藤 遼	高田厚生病院
副委員長	渡部 仁	福島県立医科大学会津医療センター	委員	石森 光一	坂下厚生総合病院
委員	千葉 沙織	竹田総合病院	委員	小林 瞳	竹田総合病院
委員	皆川 貴裕	竹田総合病院	委員	佐藤 貴文	竹田総合病院
委員	齋藤 浩行	会津中央病院	委員	吉田 賢	福島県立医科大学会津医療センター
委員	栗田準一郎	竹田総合病院	委員	遠山 和幸	南会津病院

## 浜通地区

委員長	田代 和弘	公立相馬総合病院	委員	白土 恵	常磐病院
副委員長	熊田 良二	鹿島厚生病院	委員	中原 直人	渡辺病院
副委員長	高橋 誠	いわき市医療センター	委員	佐川 保良	南相馬市立総合病院
委員	篠木 悠紀	公立相馬総合病院	委員	新妻 智之	かしま病院
委員	石川 智大	いわき市医療センター	委員	高橋 豊和	いわき泌尿器科
委員	渡邊 聖史	いわき市医療センター	委員	山内 知子	松村総合病院
委員	桑村 啓太	いわき市医療センター	委員	齋藤 涼	松尾病院
委員	清野 保幸	福島労災病院	委員	名城 敦	いわき市医療センター
委員	佐藤 浩郁	呉羽総合病院			



## ～ 県会長 「オンレコ」～

1：5月31日に県北地区協議会が中心となって「県定時総会」が開催されました。今年度は役員改選の年であり、理事・監事の選任、途中中断して、第1回理事会を開催し会長・副会長の選定も行いました。新体制で令和7-8年度の活動を進めて参ります。また、宮岡総会運営委員長・金澤選挙管理委員長をはじめ、総会運営委員・選挙管理委員、総会役員の皆様へこの場を借りて、総会の準備・運営に多大なるご尽力を賜り心より御礼申し上げます。

2：新旧執行役員の協力にて公益法人として行政庁への報告義務である「POSS申請(事業報告)」の電子申告を行いました。

3：6月22日に太田西ノ内病院にて「合同委員会」を開催しました。新体制での活動スタートのキックオフを行うため、各委員会に分かれて活動方針等を検討して頂きました。

4：新里事務局長の方で司法書士と調整して頂きながら役員変更登記の手続きを進めてもらっています。

5：6月26日に令和7年度第1回福島県原子力防災通信連絡訓練を実施しました。今回は引き継ぎが間に合わなかったため新里事務局長が対応しました。

6：「災害補償規程」に該当する保険の継続更新を行いました。

7：当会は「日本医療マネジメント学会第13回福島県支部学術集会」の後援団体となっております。

8：JART第3回理事会での報告のため、東北地域理事鈴木理事（山形県放射線技師会長）に事業報告並びに事業計画を提出しました。

9：2025年12月20-21日に宮城県で「業務拡大に伴う統一講習会」が開催されます。都道府県での開催は今回が最後となります。

10：9月12日（金）～14日（日）に開催される第41回日本診療放射線技師学術大会（福井市）に向けて準備を進めております。参加申し込み・情報交換会の申し込みも始まっております。

## 地区だより

### 県南地区

#### 「令和7年度 県南地区協議会 全体会」

令和7年5月17日（土）、一般財団法人脳神経疾患研究所附属南東北がん陽子線治療センター2階会議室において、令和7年度県南地区協議会全体会が開催されました。

福島県診療放射線技師会定款第17号に準じ、会員数203名に対し、委任状と会場参加で183名と定足数に達しており、全体会が成立しております。

第1号から第5号議案について、すべて「賛成票多数」により承認され、新たな役員体制で活動を開始しております。今後とも変わらぬご支援を賜りますようお願い申し上げます。

（県南地区協議会 佐久間守雄）



と題し、会津医療センターの吉田賢氏からは「胸部レントゲンの話」、竹田綜合病院の栗田準一郎氏からは「ポータブル撮影について」、会津中央病院の小沼慎一郎氏からは「救命初療室でのポータブル撮影」の演題発表がありました。

吉田賢氏の「胸部レントゲンの話」では、胸部レントゲンの基礎の部分から、胸水と無気肺の見分け方など胸部レントゲンについて幅広く学べる内容でした。

栗田準一郎氏の「ポータブル撮影について」では、ポータブル撮影の手技だけでなく、撮影前の準備として看護師との連携が重要であり、そのために適切なコミュニケーション能力が必要だと説明されていました。

小沼慎一郎氏の「救命初療室でのポータブル撮影」では、生命危機を回避するための重要な手段であること、そして骨盤骨折の分類についてもわかりやすく解説していただきました。

フレッシュャーズセミナーに同席し、これまでの経験を振り返る良いきっかけになりました。基本の大切さは年数を重ねても変わらないと再認識し、初心を忘れず今後も業務に取り組んでいきたいと感じました。

（加藤）



### 会津地区

#### 「第113回 会津画像研究会」開催

令和7年7月8日（火）に第113回 会津画像研究会が行われました。

今回は、「フレッシュャーズセミナー 胸部撮影、ポータブルを基本から～なぜ、何を、どう見る？～」

## 編集後記

夏本番、皆様いかがお過ごしでしょうか。

さて、2025年大阪・関西万博が開催中です。6月末には来場者数が1000万人を超えたそうです。福島からは遠いですが、20年ぶりの日本開催ですので、気になる方もおられるのではないのでしょうか。

福島市では35年ぶりに6月中旬に猛暑日となった今年、気象庁の予想では全国的に平年より気温が高くなりそうです。熱中症に気を付けながら、暑い夏を乗り越えましょう。

（白土）